

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2002年5月1日発行



定価 500円

露宿

目次

表紙写真	松澤コウノスケ
文中写真	岡田知子
愛の軋轢	富士森和行 2
彼岸句会	風来坊さん他 3
風太郎の詩など	おにぎり仲間さん他 6
決断他	田代猛 7
男の角番	清翠 9
短歌・俳句	いわせまこと
私が歩んで来た道	宗春 10
詩・四編	秋戸空 11
絆	いさむ 13
しのぶと言う女	弓削鴻介 14
マルキ舟	望月大成 15
五行詩	近松雅之 18
朝太郎の箱船	鈴木克彦(挿し絵も) 19
俺の闘い他	レイナさん他 23
無題	田中邦男さん他 24
ミーティングでロダンは…	只野醉払 25
挿し絵	CAMEL
水道町より	高橋美香 29
東京路上ふらり散歩	笠井和明 30
	岡田知子
おきなわ旅日記～子ども～	恩田美代子 35
読者のページ	36
はり師いが丸の肝心かなめ	はり師いが丸 37
編集後記	38

— 愛の軋轢 — 九首

富士森和行

いかゞはしき金融機関のポケツトチシユ 懐^{ふところ}に貯め放浪に暮れる
悪の囁き時にわれを襲ひ来る金融に手を付けて死の責問わる

裏町の場末の翳^{かげ}の茲ばかり息をひそめて時空を無視す

風薰る街へいつかは声挙げて実を結びたる示威掲げたし

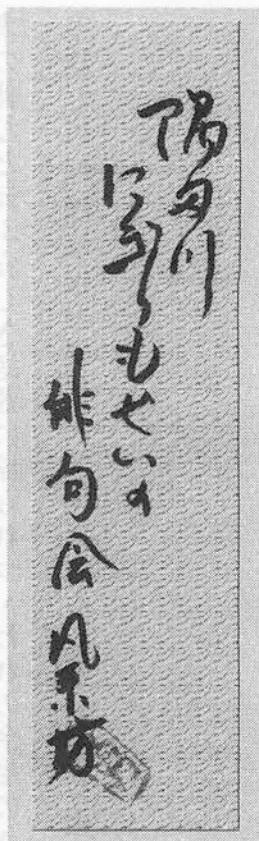
兄妹の絆^{きずな}さえ和解せざるま、七十半かばの花咲き散りぬ

かたくりの花咲く頃となりて訪^とふ佐野は懐かし亡父の里かも

底辺にむける視線の尚あつき夜更けの街のふれ合ひに居て

(新宿大ガード、処女刊本を自ら売る)





土手の上今日を限りの桜花

友集い笑う声に花吹雪

花競うダンボールの上の花見かな

それぞれに

さくらをみとれ 酒をのむ

花競うビルの谷間の隅田川

さくらをみとれ

酒をのむ

春風に

己を悟る彼岸花



花冷えや去年来た道に一人居て

彼岸過ぎ

春爛漫の上野山



花冷に

在りし日は子らと連れ立ち墓参り

仲間とつどう

春の日射しが 三宝池に

佃の島

岩田和子

風来坊

下町の

花にさそわれ

佃島

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

花ぐもり

枝のゆくえは

何処やら

かずえ

彼岸花

ほのをのごとし

夢にみし

七き父よ

また来年も

逢いにくる

鈴木

故郷は想い出多き幼さなき日

父母はいかにて 彼岸のまいり

春うららかな
桜かな

春うららかな

春うらら

仲間たち

もやう我らに

寒さきびしさ

北へ行く

井

花冷えの

川辺で思う

友の死を

花吹雪

中路

まだあつたかい君の顔は

笑み残す仏の姿

外は小雪

SAKUO

。

君の居ぬ

集いの部屋の

春のうた

てつお

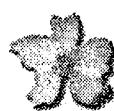
いが丸

天国へ

明暗分ける

彼岸かな

悦祥



おにごろし

一人ぼっちの
花見かな

虎の穴

墓前礼拝(ばぜんれいはい)
お彼岸重なり大渋滞
気持ち安らぐおごせ梅林



ゆりこ

春うらら

皆で楽しく

花見かな

H

寒き日び

彼岸をむかえて

心ろなごむ

人生は彼岸お参りさいごです

田中宏

(現実の社会を見て)
彼岸花
憂ひの心 我をよぶ

梅田

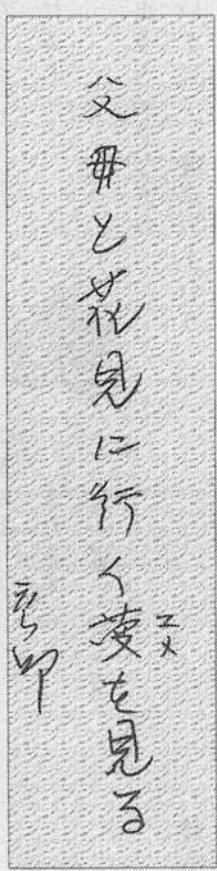
田代

花の下
わかい娘へ
鼻の下

無名

お彼岸にお花上げると泣きました

田中弘志



(風太郎の詩)

アーティスト
一人で生てる
子供にも捨てる
元婦にも捨てる
残った人生
後、何年
ひとりでよかば
死で見つめて
希望の光もよく
家を仕事もよく
食もよく。金座にて

和田ヨウ介



ある夜の夢

俺は升た人の命の泉を
この泉を升せた者は死んでしまう、そして俺は飯
飲ふされた、飲ふさオカタ
者はどうゆってしまうのか
~~死んだ~~、心配いた
泉の水のすずかりて
誰の水もすずいのかと赤えて
升た、人によつとはうまい命の
水を、あるとへう、たとえは
~~死んだ~~、美女の命の水
あふる
は、うまいかもしてない

自由人達の食事

俺達は毎日のように時間
や、何を食べるのが、実際
よく、食事をしていいのであ
たとえば、野食をして、全の動物で
さえ、何を生きていいのか
だ。俺たちは、自由に食べ
が、俺たちは、自由に食べ
る、生き生物である
のかもしてない。

決断

田代 猛

今日（二月十一日）鈴木宗男氏證人喚問が国会で行はれた。幾多の疑惑が表面化してゐる。国民の一人、一人が何が眞実かが解り過ぎるほど解つてゐるのだ。國民は馬鹿じやないのだ。「政、官、業」の構造的な癒着は解り過ぎるほど解つてゐるのだ。それを人事見たいに鈴木議員本人が律するものだと、言葉の暴力は悪いが、体の暴力も悪いと、まるで評論家見たいにコメントーター見たいに許してゐる。

「自民党が変わらなければ自民党をぶつ壊す」と迄豪語した一年前の自らの言葉を自らの胸に問つて見なさいと記したい。小泉さん如何に如何に「権力の座に、権力の座に」固執してゐる姿が如実に物語つてゐる。俗に云う抵抗勢力と一つ一つ妥協して自ら権力の座にしがみつく姿、それが貴方の姿でせう。これが弱者だつたらどうでせう。飢えて、飢えて一片のパンをスーパーで盗んでも、一人の刑事事件として処せられる現実の社会の姿、法の下では何人も平等とは砂上の樓閣でせうか。

かつて二・二六事件、五・十五事件、血盟団事件（一人一殺）、昭和の初期に東北の貧農の人々が自らの愛する若き娘さんを賣つて「公姓」として生活を支えたあの暗い、暗い時代。「北一輝著・昭和維新改造論」（岩波書店）、「山本茂実著・ああ野麦峠」（飛騨の奥山の奥深き野麦峠で若き純粋な女性が「女工哀史」泣き泣き両親と別れて暗い監獄見たいな紡績工場で身体をすりへらし若き生命を散つた、暗い、暗い、あの日本の歴史。その時代に純粹な青年将校、又、民間の若き人達が未來の國を憂え「政、官、業」の一部構造的な悪を行動をおこし、日本の政治史上に一つの歴史を作つた事実。その行動思想は幾多の論をよび、日本の政治史上に残した重大な歴史上の事例だった。

何故私がこの様な事を記し語りたいと考えるのか。このまま日本の政治、現代の社会に於いてこの様な歴史がくり返えされる如き現実の日々が今日行はれてゐる姿です。

「路上生活用品撤去」新宿区立西大久保公園に住む路上生活者を締め出

す夜間閉鎖工事で新宿区は十三日朝、区立西大久保公園（大久保一丁目）から公園の約二十人が使つてゐたテントや長い寸生活用品等をトランクで撤去する作業を行つた。トラブルに備え約三十人の警察官が公園の端に配置されたが、大きな混乱はなかつた。公園から締め出される人の多くは最低限必要な荷物を紙袋などにまとめ持ち運べない大半の荷物は放棄された。元建設作業員は「どこに行つたらしいのか全くあてがない」とりあえず近くのビルの脇などに寝るしかない」と訴えていた。「仕事をされればこんなみじめな姿になりたくない」と懸命に生きてゐるのに悲しく、又怒りこめて語つたと云う。これが現実の日本の政治です。

日本の社会の偽らざる姿です。六、七年前、現地下道四号街路で生命をはつて警視庁機動隊（最大の権力）と自らの居住を守る為、闘つた時の事を臉に想起致します。これも時の流れでせうか、複雑な心境です。

「弱者は、雨の日には、雨の中を、風の日には、風の中を、暑い日には、暑い中をじつと、じつと耐えて耐えてじつとじつと生きてゐる」現実の社会を、今日日本の歴史に日本の社会に「一つの一つの」重大な決断が必要な時が来たのじやないのでせうか。それは、それは、どんな決断が必要でせうか。歴史はくり返す、歴史はくり返す、そんな日本の政治上、社会通念上來てゐること深く深く考え思ひます。

三月十四日記す

現実

今日の一筋の涙が、明日のほほえみにつながる、涙にしたい。そんな、そんな、社会はいつ訪れて来るのだろうか。自らに鞭を打つて、頑張ろう、頑張ろう、生命の續く日迄、續く日迄。

「落葉に想ひをよせて」
地べたのうえで、そつと背中をうごかし、おこし、いつせいに立つて向うえ行く「落葉」落葉なるまえ、木の枝の葉として幾十輪の美しい花の隅

で花を支えてゐた短い幾日かが、たのしかつた。
地面で風に吹かれる落葉と云う言葉の重さを知つた今日此の頃の日々です。

三月十五日記す

挫折感

週刊新潮（三月二十八日号）、鈴木宗男疑惑追及の急先鋒、辻元清美（社民党政調会長）代議士の呆れた巨額「公設秘書給与詐取」疑惑が報ぜられました。

要点は政策秘書の名義を借りて國から一五〇〇万円もの金を詐取したとの記事でした。その日一一時辻元議員からの公式会見があり、その事実を全面否定し週刊新潮に対し名誉棄損で告訴も辞さないとの会見でした。そのテレビを見て私はどうにも納得がいかず社民党本部に電話してその事実を問ひだしました。何故否定するなら当の本人「公設秘書」共ども会見しないのか、金の流通経由（銀行通帳、秘書の納税証明書）の書類を提示して證拠として見せなゐのかと問いました。そして土井党首が辻元さんを全面的にバックアップするとの会見がありました。不可解でした。私は強く一市民として社民党自体もその事実を調査し國民に納得行くような説明責任の義務があること伝えました。

何故私が辻元さんの事をこのようないふり記したいのか、私の眞意を記したいとおもひます。

私は路上生活者として生きて行つた悲しい現実があります。その時に如何に人間としての本質を否定するような差別偏見を多くの人々より受けました。その時の悲しみ、怒りが今日迄忘れることが出来ません。何故、何故こうした差別偏見が市民によつて行はれるのか、つくづく考え悩みました。それ以来、一市民、一区民、一都民の人々と対話、会話を通

してそれを理解するように務めて参りました。もう五年近くになりますが、語り会話を通して一人一人の市民の人々の理解を深めるように務めて参りました。あらゆる機会を見、その差別偏見の無くすることに努力致しました。私は思ひます、一区民、一都民の人々と共に心を開き語り話し合ふ姿、そして共に手をたづえて行く事が、市民運動の一環と思ひます。いろいろと私なりに苦しみ悩み続けて参りました。辻元の爆弾事件、東村山市の少年達の路上生活者暴行死事件、未だ未だその差別偏見は無くなりません。事件が起ると教師やPTA、教育委員会、マスコミ等、生命の尊さが必要だと強調する。何故日々その差別偏見を教育の場、社会の場で日頃から強調しないのかと思ひます。辻元さんが一市民として日頃からボランティアとして市民運動に取組み貫して権力、その構造的腐敗を追及してゐた国会議員としての姿を見て私なりに未来の日本の政治の明るさを感じてゐました。そして私達弱者に光と希望を與える政治家として多くの期待を胸にえがいてゐました。

今日、一転して週刊新潮の記事を認める会見をされました。私は全く驚きの一言につきます。誰を信じていいのか解らなくなりました。櫻の花は咲く時も散る時もあざやかです。辻元さんに私はそれを伝えたい。この文が皆様の眼に入る頃は新緑満る五月です。日本の政治はどうなつてゐるのでせうか。弱者の願ひも究極の流れは政治に左右される事は必然です。小は大につながると云はれてゐます。この文を記しながら挫折感と空虚感でいっぱいです。そんな想ひを記しました。

三月二三日、数ヶ月振りに「もやい」との互助会に出席致しました。多くの仲間、友人と久し振りに会ひ暖い手を結び肩を寄せ、その手のぬくもり肩の暖さを心に感じました。そのぬくもり暖さが眞の友人であり仲間であること心におぼえました。

友よ仲間よ有難う 有難う

三月二十五日記す

男の角番

清翠

糖尿病を悪化させて、両国の同愛病院へ入院した時の事でした。ガラス張りの八階の窓から、両国国技館が見える。とても素晴らしいながめである。その国技館には、男と男が裸になり回しをしつかりしめ、体力と体力とが、ぶつかりあい、全十五日間を千秋楽とし、勝ち負けをきそいとい、白星を多くとったものが、上へ上へと上昇し、星を落し黒星なら、下へ下へと落ちてゆく、男の世界である。人生もしかり、世間、いや社会という大きな土俵の上で、いまだかつて白星を連続してとつたことはないが、いかに、人生にどんな小さくとも何らかの形で勝つて見せようという心がある。

その勝つという意味が何んなのか、私にもはつきりわかつていないのである。

唯、わかっているとすれば、生きていると、いうだけの事です。

それが私の角番ということでしょうか。

人生の大きな角番こそが、これから的人生のどうして生きていつたら良いかと、いう、ぎりぎり人生という土俵のたわらに両足を

かけねばつているということだけは、たしかです。それらのことは、男女とわざのこととおもいます。

私は現在、上野一時保護所に去年の七月頃から御世話になり、ようやく第一段階をおえ、今度は新宿は淀橋荘へ移住となり人生の土俵の二度目のチャレンジを迎えてます。

今までにない、苦難が待つているとおもうが、しつかり大地に足をおろしこの勝負にかつてみせる決心です。

また、新宿連絡会、および、もやい結びの会の方々の上野保護所の面会は、なによりうれしくおもいました。

誌上をお借りして、あらためて、おん札申し上げます。

これからも何卒よろしくおねがいいたします。

こうして、私の人生は、大きな偉大な土俵の上で、新しい転換となつて生きづけて、人生に対しても、自分の心に対しても、勝ちつづけていくつもりです。

男と男が戦う土俵の上の勝負、角番をむかえた今日、どうにか、みんな、仲間に支えられて生きています。

完

短歌

世渡りに慣れずいさかう余寒かな
親方にさからいアブレおどされ

かぜ悪寒道路に捨いしアンカだき

春の一日を飯場にこもる

望まぬに生みつけられしシヤバなれば
行く方知らねど「どっこい生きてる」

俳句

「生きてやる」何をしようと
どんなふうでも

明日はあした

でも飯がくいたいデヅラもほしい

いわせまこと



ごとくお客様もふえ、軌道にのつたそんな時、一人の女性が客として來たのです。

それが宿命的な出会いであつたような気がします。交際が始まり、私が二十五才の時に婚約し、すぐその年に結婚し、二人の生活が始まり、息子も生れ、強い太陽のように木々も根を下ろしたくましく成長する

ように、私も家族というものに根をおろそうとした矢先、なにしろ借店なので貸すことになり、以前からの理容教職を生かし、妻子を田舎に置いて単身で東京で勤めるこ

とになり、そんなある時、突然に妻に先だたれとほうにくぐれて一時期は氣がめいつて

いたのですが、子供がいるのでいつまで考えていてもしかたないと想い、立ち直る努力したのです。

それからは振り返ることもなく立ち止ま

ることもなく若さゆえの稚拙だと自分に言いい聞かせ、息子も大学まで出して父親としての任務が終り、再び東京へ出て來たのです。

自分の歩いて來た道は、相違つて來たかは定かでは無いと思いますが、まだどの程この世に居られるか知らないが、私は自分の歩いて來た道をこれからも歩いていくつもりです。

今まで自分が歩いて來た道は何であつたかとふと考えることがある。
人生生れて、誰れしも自分の道があるものだ。それぞれ違つた道を歩むだろう。

私は生れ落ちるその時から両親は居なく、両親の愛情すら受けることは何もなかつたと思う。でもこの世に生れ受けた今の存在は確かだ。

小さい時の記憶では母親の実家で育てられて、学校を卒業出来た。一人立ちしていき職業である理容師として一生懸命教わり習つたのです。五年間の修業を経てやつと一人前の理容師となり、まぎりなりでも店を持つことが出来、理容店を営み陽の増す

事故にあい左足の骨が二本おれで入院、その後のことを思えば不慮な災難でした。

それが一八〇度の転機でした。初めのリハビリで温泉宿で足を治すためその旅館で下働きをして働いていました。そして、又もや東京に出て來てしまつたものでした。

始めは仕事もなく宿なしの日が続、持つていた金も底をつきあてもなく歩いていた時、運よく働くことを世話する人に逢つて、働くことが出来たのであるが、これまで理容の職と掛けはなれた土木作業員の仕事をした。始めのうちは一からおぼえて土木の仕事を一二年余やつて参りましたがこの不況で働くことが出来ず、野宿するようになり六十を過ぎ始めて、ホームレスといった体験をし、多くの仲間と共に色々事を学んだような気がします。

今まで何も知らなかつたことや人間としての生き方等々、この目で見て來たつもりです。

今まで自分が歩いて來た道は決して平穏無事ではなかつたはずだ。

人生に転機という言葉があるならば、理容の職人として働いて家路に着く時、交通

詩四編 秋戸空

存在したためしがない

自然を想う心で…

民は主人のためにかぎりをつくす。
これが、今の民主主義の内実！

民主主義

02・2・23

私は、生きること、が、
決して、美しいこと、とは考えていない
また、醜いこと、でもない
それを考えることは
まちがつてはいけない：か？！
その中〈社会〉で生きている、自分
問題はそのこと

風

02・3・1

伝統があるという
伝統があつても
詩行など書けない
伝統とは？何なのかな

民主主義を読み違えてはならない
ブルジョアジーの民主主義か？
民衆のための？民主主義か？
民衆のための民主主義など
何時の時代にも

つきぬける

02・2・23

「民族」…これは、私たちが
つきぬける（なければならぬ）壁とし
て：
この「民族」という壁を
つきぬけた處に
私たちが、生きる、世界はある
まちがつてはいけない：か？！
その中〈社会〉で生きている、自分
問題はそのこと

除外

01・2・1

気が付け！日本民衆！
何處にでもいる、よそ者だつて？
〈国会主義〉イデオロギーに巻き込まれ
た社会性
在日アジアの民を、在日アラブの民を
嫌う、支配者のイデオロギーを配す
排外どもめ！

死に行く者（露宿生活者たち）
を想う心で
私は、一たい何を？
出来るのだろうか、救うこと…
それを、使命と云えるのか？
その道をあゆまねば…

今夜も、暖、寒の時季の中で
彼らはこの社会の中で
「自由」になつたのか？
死にゆく者たちも
生きる者たちも
コンクリートの大都市の中で
今日も風に吹きさらされて眠る…

先進国という〈地獄〉から
ぬけ出せない〈日本〉
あわれな悪靈となつて いる
〈日本〉！

在日外国人（アジア、インデア、アメリカの民）

彼らが侵略者？違う！

我々が眞の侵略者

よく見つめろ社会現象を！

全ゆる物資を造り出すため

安い〈労働力〉を彼らの国で買い集めている

この国えかき集めときながら

その彼らが、集まりすぎるから

その彼らが侵略者になるだつて？デマを流す

在日外国人が何故いるのか

何故集まるのか、考えてみる事ないのか？

よせ集めといて悪い外国人（アジア、アラブ）

だつて…？

真つ白い白人どもだつて外国人なんだぞ！

100円ショップって何だ？

我々が貨幣〈金〉で侵略した國で

極安い労働賃金で造らさせて

逆輸入してでも100円で売れる

これは、一体何なのだ！

我々の國の中で造つたら100円で売れるのか？

ここにある〈いかさま〉＝レトリックを

よく見てみろ！この社會の〈いかさま〉を

〈ブルジョアジー〉＝〈スターリニズム〉

のしかけたレトリックを
しかしスターリニズムは、ブルジョアジーに
凌駕されてしまった

イエス・キリストもユダヤ教もあらゆ
る宗教も社会主義も
目いっぱい、ねじ曲げられてしまつた
スターリンは民衆のための存在じやあ
ない！

民衆はスターリンのために存在した：
ブルジョアジーは、知つていた、その
事を…

ブルジョアジーも スターリニズムも
〈糞〉と〈みそ〉ををかきませて
まことしやかに〈たくみに〉

政治的利用をし始めた時代でもあつた：
それをブルジョアジーは身に付けてしまつて

今も〈官〉はエラく〈民〉は〈法的〉に
官僚体系に従属する〈義務〉を
〈累〉せられている それも自然のよう
うに…

決果としての大帝国主義〈ファシズム〉
〈先進国軍〉＝〈国連軍とも云う〉
この軍の構成要員は民衆…

これが〈100円玉〉なしし〈50セント〉
の意味の事！

イーブ・ビコ

金子文子から 山岡強一、佐藤満男
これらの人々は〈輕札権力〉の介入によつて

〈合法的〉に殺されてしまった

非情無悲な 官僚体系

ブルジョアジーは、この極端な

スターリンの官僚体系を

まことしやかに〈たくみに〉

政治的利用をし始めた時代でもあつた：

それをブルジョアジーは身に付けてしまつて

今も〈官〉はエラく〈民〉は〈法的〉に

官僚体系に従属する〈義務〉を

〈累〉せられている それも自然のよう

うに…

決果としての大帝国主義〈ファシズム〉

〈先進国軍〉＝〈国連軍とも云う〉

この軍の構成要員は民衆…

これが〈100円玉〉なしし〈50セント〉

の意味の事！

パトリス・ルムンバ、マルコムX

絆とは、生きている人間としての私を励ましてくれ、ある時は希望と勇気を与えてくれる、偉大なる契りである。

いつの日か知らず知らずの内に目に見えない所から絆と云う契りが私に結ばれて来た。

過去の人生道には何一つとして忘却出来ない絆はなかつた。これが俗に言う絆と云う奴かと想感する様になつた途端、露の如くに消えて行く。絆と云う力強い表現を味わつたのも束の間、又良き友との絆が結ばれたと思つた途端、永久する事も無く路上から病に犯され他界した誠に残念なことだ。この友ならどこまでも契りをと好感を保たうと願つても世の中はそううまくはゆかない。友は去つてゆく。立つ鳥は後を濁さず去りゆく友の後を追はない。それよりも新しく芽生えた絆を大切に育て、ゆきたい。

今私の立場では支援者、各ボランティアの方々、又多くの仲間との交流を高嶺の花を見つめるが如く助け合ひ、励まし合ひ、何事も一人で迷はず話し合う事でそれからでも自分が思うように行動しても遅くはない。人は人、己は己と云う時代は私位の年齢になると過去のもので、絆なくしては人生に希望がない。絆、固く結ぶ事が最大なる己自身の武器でもあり宝物でもあると私は痛感する。現在多くの友との絆は、新宿連絡会からの出発点でそれからと云うものは拡大になつた。路上生活から支援者の厚意によつて脱出して約八年は走馬灯の如くに過ぎ去つた。人には云えない暗い裏街道を歩いて来た私にとつて、絆と云う金字塔を私に誘導していただいた連絡会支援者の方々には再度有難たう、と心の底から述べるばかりだ。私的人生も大いに躍進し異変した。まるで天と地の差だ。過去から何も彼も

逃れ頗みると只なにかしの背の重荷だけが忘却出来ず、過去など一切振り向かず、考えてみると楽しみや嬉しさ夢をも見た過去は、ほんの一握り、それも啄木の詩ではないが指の隙間から僅かにこぼれ落ちる砂でしかなかつた。

人々にはそれぞれ運命と宿命がある様に、絆にも運命と宿命があると同時に、喜怒哀樂という諺もあるが、あえて私は喜哀樂と云ひたい。怒を除外したのは私には失敗談が余りにも多かつたからだ。人は短期は損氣と云うではありませんか。何事も、見ざる、聞かざる、云はざる、只私の廻りに存在するのは人と人、心と心のつながりだけで、それが眞実の絆を保つことが出来るのではありませんか。

私は現在、自立生活サポートセンターもやいの互助会の一員としてお世話になつてこの会員の仲間達の絆の尊さ有難さを味わいつゝある。これから私に残された僅かな余生を心に価値のある絆を求めて悔いなく歩みたい。どれだけ私の心の糧となるであろう。下がる程、人は見上げる藤の花の如く、私はかくありたい。明日又明後日と今日ある生命をつなぎ、今から人生七転八起と云はず転ばず一步一步坂道を上る如し人生道を歩き抜きたい。と願望している。さうして今までよりも大きな夢を持ちたい。

幻はいつの日か消え去りてゆくが、夢だけは消え去る事がない。絆と云う輪の中で、思い出が、教訓が数え切れない程残るようになり友と共に努力したい。

恙がなく
孤独に耐えて余生をば

後振りむかず
悔いなく歩め

"平成十四年一月九日私の書染より"

絆

「きずな」 いさむ

しのぶと

言う女

(二)

逢うも別れも、何時しか過ぎて、
梨の礫の、片便り、
勝手氣壇な、この俺に、
涙をくれた、人がいる、
今は病床の、虚しさが、
真顔もやつれ、身も細る、
しのぶと言う女。

号削鴻介

(三)

どうせふたりは、飛べないかもめ、
浮えぬ運命と、諦めな、
そんな気がする、この俺に、
別れることは、死ぬことよ、
船の汽笛が、咽び哭く、
古い港の、裏街で、
星空眺め、何想う、
しのぶと、言う女。



乙姫

大変ぞ 二畳の部屋で垂れ流し

ウンチまみれで

救急車来て

馬子

ひよつとして狂つたや知れず センセーも

ついに終着

幕引きの時

馬子

引く手なし 処置入院はサツの手で

明日は早速

格子戸の中

元刑事

セーシン病 短命なりと聞きたれど

よくぞ生きたり

六十の七

公安課長

死んだなら遺産残すな すべて灰

電光石火

すぐ始末せよ

ブータロは死ねば遺産はごみの山

万事OK

スパイ

死神の影があり、シビンには

馬のショーンベン

チヨコレート色

病歴は包み隠さず カルテには

昔キ印

今もキ印

お恥ずかし ウンチをすればお丸にて

こりもせず三上追っかけ ストーカー

若きナースに

ド尻さらして

阿波の名所の

アオイサンまで

乙姫
お可哀そ センセは知らず 留守の事
同志五林が
サツにはめられ
元刑事
二巻目はなし

知らせても打つ手はあらず 一巻の

終りとあらば

馬子

氣が狂ればセンセーようと自由の身

脳病院で

楽隱居して

乙姫

こりもせず三上追っかけ

ストーカー

若きナースに

ド尻さらして

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

足揚げてお尻ふき、ナースの手

これが逆なら

さぞや嬉しも

病みたれば欲得なしのお人形

大股開き

チンチ丸出し

大成

病む身にはぜいたくは敵 得がたきは

天使に勝る

母ごころかな

よち、で今宵やつとこ ポータブル
尻はふきたし

大成

初日ノ出 見る思いかな 白々と

希望の朝や

病室の窓

死ぬことを期待されつ、救急車
影でニンマリ

コンプレの爺

ネマ上げよ ベベがウンチで汚るなり

新しき生きざま求め再出発

中村病院

退院の朝

死ぬことを期待さる身が御生還
コンプレ爺やん

ガクリンコして

御前様 おトイレ行くは車椅子

再出発 いつも挫折の連続で

三日坊主も

後待つた無し

くる年は明けてバッヂ二本足

四つ足人生

おさらばをして

お尻隠さず

歩行器を使つてやつと一人立ち

トレードマークの

ベレー帽して

くるならばタクシを使え 竜宮は
秘密のサロン
サツが血まなこ

くる年は明けてバッヂ二本足

二本足して

おトイレもやつと一人で用が足り

六十七 ついにスタート 悟りかな

前向き人生

明日の希望へ

お手々伸び、
尻の穴まで

足代を惜しむつもりはさらゝも
軽きお財布
風にふわゝ

大成

ヘルパさん 胸の突起がちょい魅力

オバタリアンの

ブスばかりでも

ヘルパとて汗を流すは一つ屋根

ナースばかりが

白い天使は

奇蹟かな 死線を越えてよみ返り
狂らずのおつむ

まずは何より

馬子

馬子

ヘルパにて汗を流すは一つ屋根

ナースばかりが

白い天使は

大成

気が狂れば明日は極楽 アオイサン

生きて甲斐なき

浮世よりまし

馬子

見た目には普通の人もどこか変

医者通いせよ

大成

天才と紙の一重は望まねど

貧乏神が

裏でじやまして

大成

前世は島田清次のお告げあり

生まれ変れば

平成の星

馬子

人前でしゃべりてならず センセーの

おつむの中身

透けて見え、

太成

大學者 桜井ハカセがお墨つき

キ印なれど

末は天才

馬子

本気にて云うはずあらず ジョークなり

桜井ハカセは

医者様の口

馬子

気が狂れば故郷へ錦 夢の夢

お里返りが

アオイサンでは

大成

ドキチガイ 恥ずるとこなし 三上こそ

④だましの

ニッポンの恥

大成

馬の尻 ふかせてみたし もう一度

美人ナースに

チンチ見せ、

公安局長

キチガイに刃物なりとは正にこれ

ペン取上げよ

骨抜きにして

スパイ

見立ではアイツは被害妄想狂

サツは安泰

ちゃんと逃げ道

署長

狂らぬるまで待とう マルキ舟

人騒がせは

末の末まで

乙姫

死んだならヘルパが湯力ン ニヨキヽで

靈安室も

ピン立ちのまゝ

乙姫

センセーに飲ませてみたし バイアグラ

七転八倒

病室の中

大成

六十七 お年を召せば役たゞ

せがれはどうに

親不孝者

<p>狂らぬなら狂らせてみせよ マルキ舟</p> <p>留置場入れて</p> <p>マイコンをかけ</p> <p>長官</p> <p>狂らぬなら殺してしまえ マルキ舟</p> <p>マルキ病舎で</p> <p>注射一本</p>	<p>狂人の血を呼び醒まし サツの罪</p> <p>三上の大罪</p> <p>もはや手遅れ</p>	<p>橋から見下ろす</p> <p>土手につながる</p> <p>桜の満開</p> <p>走る自転車</p>	<p>狂らぬなら狂らせてみせよ マルキ舟</p> <p>留置場入れて</p> <p>マイコンをかけ</p> <p>長官</p> <p>狂らぬなら殺してしまえ マルキ舟</p> <p>マルキ病舎で</p> <p>注射一本</p>
<p>怪我の功名</p> <p>キチガイの真似をさせればプロの腕</p> <p>怪我の功名</p> <p>キチガイの真似をさせればプロの腕</p>	<p>キ印は恥と思わず スパイして</p> <p>バ力をさらすは</p> <p>終生の恥</p>	<p>気が狂るもおつむはばけず まとも並</p> <p>歌も作れば</p> <p>小説も書き</p>	<p>足留めの最善策は金欠病</p> <p>足留めの最善策は金欠病</p> <p>足留めの最善策は金欠病</p>
<p>やめさせよ ある事ない事言いふらし</p> <p>アチャラコチャラと</p> <p>ホツキ歩いて</p>	<p>ジャニンジャ吸上げ</p> <p>星のふところ</p> <p>忍者三上</p>	<p>新しい季節</p> <p>新しい環境</p> <p>新しい部屋</p>	<p>春</p> <p>春</p> <p>春</p>
<p>お財布は風にふわゝ</p> <p>紙風船</p>	<p>飯のタネ</p> <p>ガチリ押えのスパイ網</p>	<p>新しい関係</p> <p>変わらぬ頭痛</p>	<p>桜の満開</p> <p>走る自転車</p>
<p>ビンボさせれば</p> <p>お財布はカラ</p> <p>バチシ足留め</p>	<p>仕上げ上々</p> <p>忍者三上</p> <p>馬子</p>	<p>変わらぬ頭痛</p> <p>空の下</p> <p>鮮やかな空</p>	<p>橋から見下ろす</p> <p>土手につながる</p> <p>桜の満開</p>
<p>キ印が精神科医を刺し殺し</p> <p>山の手は</p> <p>何をするやも</p>	<p>センセーと年の開きは目ではない</p> <p>いつカリツチで</p> <p>家庭円満</p>	<p>大切なことを</p> <p>忘却させる</p> <p>この世は俺に</p>	<p>土手につながる</p> <p>桜の満開</p> <p>走る自転車</p>
<p>何するか分らぬ奴と姉貴殿</p> <p>後指して</p> <p>鬼母を引取り</p>	<p>じやあねと言つて</p> <p>さよならの意味</p> <p>こんなことが</p>	<p>じやあねと言つて</p> <p>さよならの意味</p> <p>こんなことが</p>	<p>土手につながる</p> <p>桜の満開</p> <p>走る自転車</p>

五行詩

近松 雅之

<p>人を殺しても</p> <p>かつての聖地に</p> <p>住みたいか</p> <p>命より</p> <p>土地が貴いか</p>	<p>願い</p> <p>この腹に</p> <p>手を突っ込んで</p> <p>心を抉り出し</p> <p>抜いてくれ</p>	<p>三百円の飯を食い</p> <p>収入に見合わぬ</p> <p>高い家賃を払う</p> <p>不動産に</p> <p>捧げる人生</p>	<p>土地</p>
<p>この刺を</p>	<p>刺</p> <p>諦めようと</p> <p>決めたのに</p> <p>疼きだす</p> <p>心の中核に</p>	<p>じやあねと言つて</p> <p>電話を切る</p> <p>さよならの意味</p> <p>こんなことが</p> <p>前にもあつた</p>	<p>土地</p>

朝太郎の箱船

船長
朝太郎

劇作者
山下金七

食料スポンサー
エビカニ聖人



鈴木克彦作

二、朝太郎がやつてくるの巻

五、空のあなたの山遠く

野を越え山越え里こえて 空のあなたの山
遠く 狂人達が住むと人のいう 黄金郷
があつたとき（注）

と言つても今はむかしのことじゃない 今は
は今 それも西暦二千年後の世のことだ
福島県の山奥の 広大なる政府払い下げ用
地にボツンとばかり 中規模な発電所が
建設されただけのこと 少しも驚くに当
たらナイ

ただそこに働き生きている人々が 少しく
変人奇人愚人などと 世間で言われる人
達だから 疑問に思うし面白い

しかも発電は 火力でも水力でも 今流行
の太陽熱 風力 地下熱でもなく原發で
もないというから少しく興味をソソラレ
ル

ジャーン！

その名も氣高き汚物発電所

汚物を巨大なタンクに入れて発酵させて
出てくるガスと熱を利用して タービン
回して電気をおこすという種類だから痛
快だ

また時と所を同じくして併設されたマザーパー
牧場 犬猫食肉センター これは国中の
大公害 ノラ猫ノラ犬に ハトやカラス
を集めて食肉にするカッキ的アイデアだ
それにマルキの孤児院兼老人ホームにマル

キの部落集落 ゴッタ煮風な総合協同生
活場

どうやらマルキとは キ印のキの字を○で
囲んで手となつたものらしい そのマル
キ部落の長が朝太郎

そんなプラクを國中の人々が キチガイ部
落だの ぶらくの民だと蔑んだのには
理由があるが それは後ほど語ることに
して

様々に山積みした問題を ひとつひとつと
解決し 何年もの試行錯誤の上で作つた
マルキの発電所 並びに関係事業を何とか
稼働にのせた服部朝太郎

この者の経歴放送を夕太郎バリにしてみれば
あづま路のはてよりも なお奥つかたに生
まれたる人 幼くして変児の譽高く 長
いでは巷ちまた 寄せ場 ヤクザ飯場に交じつ
て万の狂人 痴人 ニコヨン達と遊びけ
り（注）となる

その後一大憤起して大プロジェクト構想実
現のため 法学部二部に入學し学士を取
るかたわら 様々の資格を入手する
したがつて 創業には当局 府県より大い
に危ぶまれた諸問題 就中巷や公園 河
岸などにうごめく行き場のない男達 親
に捨てられた孤児 身よりのない年寄り
その他変態ギミの者 発狂氣味の者達集
めで自信と勇氣を与える 何とか興した大
プロジェクト 狂人至上主義に基く二十

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

一世紀のエルドード 解放コミュニーン

だつた

その次が市町村で忌み嫌われ 持つて行き場のなくなった生ゴミと建設しようとすれば地域住民から猛反対を受ける汚物処理場 それでいて 誰でもカレでもタレル汚物をみんなまとめて山奥に運んで処分するといふ心意気が大勢派である国や市町村の人々から理解が得られたこと その上に大きな助け国が少しく動いてくれたこと 朝太郎のねばり強い嘆願もさることながら 用意周到の奇抜な汚物電化プランが奇妙にも建設省やら二十一世紀エネルギー対策庁の目を刺激した石油もいらん石炭も使わん ウランもイラン ダム造りも不必要 金のかからぬ発電所 ただでさえ嫌われる汚物を大型タンクローリーで密かに山奥へ運べばそれでいい

させたガスをとる 水素をとる 出がらしは土と混ぜて再利用 計画書はしつかりしているし 朝太郎には各種の免許もある モデルプランとして許可してみよう そこで政府は実験用として 土地を無償で貸しつけて 酪農に農業資

金 汚物発電のため大きな水槽やガスタンク 発電装置の運転資金を融通した

さらに 用地にはあらゆる人から嫌われる老人 狂人 孤児の施設もあるからそこへ汚ない者共押し込められる 五百人以上も入るゲットー 労改（中国の刑務所）だとウソブク

金のかかるゴミ処理 汚物処理 人間ゴミまで一手に引き受け発電までして 余った電力は送ってくれるというし 牛豚鶏の肉も提供してくれるという 都会を悩ませるハト カラス公害 ノラ犬猫も處理するという どうやら超人 貴人 痴呆人のため動物園もつくりそうなアンバイだ それとも人が食うのかな

こんなうまい話があるものか 失敗したらやつらの責任 成功すれば国が将来のためマネすればよい そのためにも監視団や指導者を送つてしまり管理して入つたが最後危険な者は外に出さないよううにスレばよい やつらが暴れ出したらすぐ潰す

俗にいう役人やら管理職 警察 指導者なんてそんなもの それでいて国が危うくなつて政治の力が衰えると 一番先に悪事を働くヤツラ そんな彼らの人間性を見事に観破して朝太郎 資金や援助をモノにして トウトウ創った発電所 しかも人々の悪い期待に反し大成功したのでありました

創業してはや二年 二十一世紀に入つて

始め危ぶまれた人事の問題も見事に良い方へ向う 私財をハタイテ引き取つた人々や志願してきた人々を その人に合つた仕事や暮しをさせたのが大当たりロクな仕事陸な生活をしていなかつた彼らに 衣食住を与え 彼らの夢を実現させたからだつた

都会のシレツな生存競争とリストラと人間関係にツカレた心のヤマイを 山奥で動物達や大自然の中に解き放ち フロンティア精神とターザン生活に導いた 救いなき現代社会の落ちコボレ 痴人は痴人を知り 狂人は狂人を相哀れむことによつて 人の愛を知る力が花咲き実を結ぶ 狂人の夢の現実がパワーアップとなつて 計画は軌道にのつたのだ

そのむかし 西部へ西部へと向つた白人達満州へと胸をふくらませた少年開拓団 南米の広大な土地に憧れた小作人 はてはつい先のビートルズ狂を含めたインド熱何よりも朝太郎が旗印 狂人・痴人・愚人・変人・悪人の 五族共存相互扶助精神が強くあつたこと 成せば成るのアクマの申し子の朝太郎が強運 大開運 大海運 アクマを信じる心が成功させたのだ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

さてだ

汚物発電所総合計画は成功をみ 仕事は波に乗り成果も 余剰電力は各地に送られ皮肉にも狂牛病の恐れ全くない牛豚肉も取り引きされて ダイオキシン不出生の野菜も育つて 少しく金とユトリがもて ④部落の人々も力と自由と繁栄を謳歌しつつあるこの頃事態はマンガの如く急転回を見せ ようやく幸になりつつある④の人々を直撃する事件が発生したのだつた

小供の時から苦労や貧乏と格闘し 常に世の愚か者やクレージー パン助を助けて身命を惜しまなかつた朝太郎に またまたアクマは苦しい試錬を与えたのだつたニクタラシイタ太郎

お前に教えてやろう その時の尊師の 傲岸不遜な攻撃抵抗精神を

朝太郎が血へドを吐きながら汚物発電所を成功裡に導き 日本中から賛美を受けた 時の平成一代男のある言動を一 発電創業を成し得た服部朝太郎 当然世に認められて マスコミに騒がれて 一躍世の寵兒となつた ところがだ

H H K テレビ局に招かれ 人気あるモーニング何んとかショウに出た時のこと 全国のみなさま方に発電所の内部やら就業状況 マザー牧場風景が紹介され放映され 従業員の苦労話が語られて 全国

の知恵遊びとやら特種学校に学ぶ人に

勇気と期待がカケラレ チヤホヤとおぼめのことばを頂戴したその後で

世間からもろにイタブラレ バカにされた狂人痴人愚人の悲しみ悼み復讐心を代弁してか 全国のまじめみなさんが見る

テレビ放映中にとんでもない破廉恥をやらかした 朝太郎 まずは第一声 「バカ者がバカを見る世の中なんかクソ食らえ！」

とアナウンサー目ガケテ怒鳴り飛ばした

その凄まじい様相に失禁し才ノノイタアナウンサーに二発目をお見舞いする

「お前はバカがバカを見なけりや一体誰がバカを見ればいいんだと思つてる

と脅し 三発目のウンパンチ（ウンチがバシャと顔にヒリつくようなパンチ アッ

と叫ぶところからウンのパンチとも言う）は こともあるうに自慢のバカ声はり上げて 何やら聞いたことのあるフシ

回しで歌つたアクマの賛美歌だ

「天地開闢以来 久しく待ちにしアクマは来ませり アクマは来ませり 常にヒ

クキを求めて—（注）

その名も氣高き汚物発電所 アクマは常

にゴミクズから黄金を造り出す鍊金術師の一大構想 世に恵まれぬ変人ゴロツキ 犯罪人や天才達が 福島県の山奥に築いた総合計画 アクマの子らの理想郷 そなへてはならぬ狂人國の宣言だったスペチは因をもつてジャッキし それが様々に縁をつくり果報となつて顯われるもの

|

などと歌つて発電所創業成功的の演説をしきくくり 身の毛もよだつ大笑いをした

この笑いで國中のあらゆる分野のあらゆる人が不快に戦き 吐き氣 テンカン 腸ネンテンまで起し あきれ果てて力もぬけた

あまりに独善的でトッカビ（朝鮮の妖怪）みたいにトッピで場違い発言 このために正常に働き出した発電所や牧場が キチガイブラクと いう活名ラクイ

ンを押され 差別と誇りを受けて 奇妙に狂いながら操業を続けたのだった

だがこの発言こそ 歌こそが 長い間心に溜めてあつた熱い思い 朝太郎が勝利の歌 痴狂人の願い 迎合なき戦世に示さなくてはならぬ狂人國の宣言だった

スペチは因をもつてジャッキし それが

の絶喜と狂喜が凱歌となつてホトバシツ

タのだ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

その気持 笑う姿が分からんでもないが
世間の人に与えた打撃はこれまた大きい
人々はこう思う 我々をあざ嗤うその態度
が気に入らねえ バカや気違いにバカに
されることは—そんな協同体などすぐに
も潰してしまえと当然の如く世の人々か
ら髪髪を買う

その時から偉業は地に落ちて キチガイ部
落の汚名と 多くの人の仮想実相の敵國
の思いを頂戴し 蔑みの中に孤立する
人はこう考える やつらを部落から外へ出
すな デットーの回りには高圧線を巡ら
せて 非人共が逃げられぬよう監視せよ
キチガイが火つけをしても 飛び火になら
ぬよう④の周囲の木を切って孤立させよ
常に警官 役人をもつて嚴重にトリシマ
レ 正式な医者や技術者を送つて事に當
たらせよ

牛印びとを○で囲め

今日ライ病棟はなくなつたが 新しいライ

病棟はここにあり 隔離されたるエタ部落
民主主義も共産主義も 古代社会 封建社
会 世界中いつの世も公然と あるいは
隠れて存在していた最低層社会とデットウ
世に迎合せず 助けも求めず 自らを低く
して 我らが正統マトモとばかり 世に
④ ブラクを表明し宣言した朝太郎 朝太
郎はホムべきかな アーメン

それなくとも世界には シャトーティフ
生き残る そう言つてたのではなかろ
予言

「悔い改めなさい 地獄は近づいた」

その日にはもう 善も悪も 狂人もマトモ
人もアリワしない 救われる者だけが

その気持 笑う姿が分からんでもないが

世間の人に与えた打撃はこれまた大きい

人々が万国の悪人痴人狂人团结せよ 勝

利の日は近い と互いに叫びたい思いで

生きている だがお立合い そんな所や人々があつてこそ
そ 一般市民は自由に平和に健全に 文
化的な生活がオクラレル これは身分制度
階級制度の良いところ 人間は差別し合う社会的動物 天才もキチ
ガイも非人奴隸も必要あつて存在する 下の者がイナクなりや上から踏み落とせ
ばいい それでなくとも震災や恐慌に戦
争 瘟病やら食料不足になれば 民主主義も 社会主義精神も存在しない あるのは
は正しく力ある暴力漢権力漢だけが生
きのこる事実だけ

だが夕太郎 次前がどんな感銘受けて 神
を捨ててまで朝太郎に帰依したか知らな
いが

三十年も一緒に生きたこの語り部はこう思
う 朝太郎は前々から大洪水のこの日の
あること知つてと言つたことではないか
あの言動はモシカシテ人々への警告と

(*注) 秋

愚公—古代中国の老人、小供、孫とかかって
山を他の場所に移した人。
ケンジ—宮沢賢治のこと。

(注)は、引用、書き替えたもので、必
要があれば(著作権などの問題)、これを
正式に届ける用意があります。

うか

ニセモノゆう太郎 カブレ頭にヘラヘラロ^{うら}
で何をか言わんや

「おごれる心も猛き事もみなとりどりにこ
そありしかども ま近くは マルキブ

ラクの朝太郎と申し人のありさま 伝
え聞くこそ身も心をも喜ばす (注)

酒呑童子は大酒呑んで 赤いチンポで小
便し作物多く実らせる 愚公は山を移
し (*注) ケンジ (*注) は少しの野
菜と玄米食べてオロオロ歩いたが
朝太郎は大飯くらつて大糞ヒツテ船を
イゴカシタ…」

俺の宿

何のために生まれてきたのであろうか、
主観的な目的の完成をめざして、生きて
いるのであるのか。耳は聞こえても、批判
力、できぬ、かわいそこの人々が、夕暮
のつむかで、俺の恋る桜の夜のみで
あるのか。

02.3.25

さよなら私のあなたを探す
が、この体からの見晴しがそのゆびの先に果てる
存在を感じて息がきこえても
あなたが私を抱まないかぎりには
見えなくてそのゆべに触れない

吹きぬけている風
山谷の風
寒さも暖かさもある風
吹きぬけの吹く風
山谷の風(生き物)風

逆戻りしない私は意味を探す
が、この目から見た物が消えてゆく
立ち止まて息をころしても
一人でいるかぎりには
一方的な解釈がもつれて
種きまかない

必ずしもこの世の中に結論があるはずない
一つの最後が新たな初めになって
改めてえらい混乱を生み出す
だが、人間は生きていて
この貴重な世に
望みをかけねえ

レナ

人の生きる道は。
老死が死、ちかく死。
人の幸福は、死の人生。
まち方にあります。

Katsu Mitsu
K. Miura.
2002. 3. 19.
大河原記載
正義

山河水仙 稲信じて進む道
すでに味方なり ふとふり向け出
真白き富士の雪 とけ子が 想ひだす
一人ほえず、

(誤) 山や河、やの他、すでに物が、山を山と
川を川とも自分とは見なさない。思ふ事う事う
決して自然は、うろ切の事をしません。又、あの大
きな山富士山でさえ自分の、ちからでなく
なきれる事う事です。
甲斐那智

平成14年3月28日

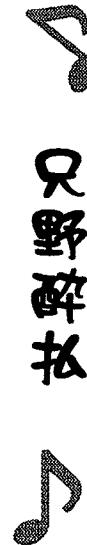
俺の思想
個人久の考え方誰も知らず、知りてよ。他人
俺が「くわば力だ」といっても、俺はりこうだが
とっても客観社会はどう表現して、そこか
えて民族的では違へる。3つの個人の差異や
感情的の違へる。ある

咲き出す手の桜を
あなたの方に見せる
咲き出す言葉の力で
暗闇を追い出せる。
~~咲き出す手の桜をあなたの方に見せる~~
~~咲き出す言葉の力で暗闇を追い出せる。~~

かこうかた 山谷

一つの情景
俺の内を何かか走った
みたいだ
山谷の吹き出しは
うごいている、生きている
今は游んで、寝て、寝て、山谷

ミーティングでロダンはステップ、ジャンプした。



伝統五 各グループの主要目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアルコホーリクにメッセージを運ぶことである。これは、グループを立ち上げたら、AAミーティング開催を義務付けしていることだ。メッセージを運ぶということはAAミーティングに参加することだから、ホームグループを決めたメンバーなら、そのグループ主催のミーティングに参加するのが最も良いだろう。AAミーティングは誰れのものでもない。ホームグループを持つとそのグループのミーティングはそのグループのものだと思われている人が多い。

ロダンは立川にあるカトリック立川教会で毎週水曜日に開催しているにしき町グループに所属している。現在は会場チエアマンとしてサービスに従事している。そのなかで考えていることは、にしき町グループを私物化しない事だ。16時に勤務が終る。牛込神楽坂から大江戸線で立川に着くのはだいたい17時30分だ。夕食

をゆっくり食べている時間はないので、コンビニでパンかおにぎりを買って会場に行く。教会に17時50分ころ到着する。会場を開けて、まず、お湯を沸かす。その間に会場のセッティングをして、教会の心暖たまる好意が保管してあるコーヒー・カップやAAプリートを二階から運ぶ。仲間が18時を過ぎると手伝ってくれることも多い。手伝ってくれるのはうれしいし、ありがたい。しかし、18時前に来られるのは困る。教会の好意で18時から利用させていただいているということを忘れてはいけない。常態的に17時50分にロダンが到着すると待つている仲間がいるはどうしたものだろ。待たれるというのは会場チエアマンにとって負担になるのはロダンばかりではないだろう。人との待ち合わせにしても、ロダンは待つ事は気にならないが、待たせるのは嫌だ。たしかには誰でも時間を有効に使うのが下手だ。まして、お酒を飲まないためにも、会場に行く事が一番安全なのはわかるのだが……。でも、やはり、18時は厳守したいものだ。時には何かの、たとえば電車の都合とか、ロダンは新宿が起点だから、どんな事が起きたのかわからない。この三ヶ月ちょっとの間にも、一度だけだが18時を5分過ぎて開場した事がある。これは福祉のケースワーカーから連絡があつて区役所に寄つたためと、こんな時に限つて電車が10分も遅れたからだ。そのためにも立川には17時30分に着くようにしている。

多くの仲間が来られる。いろいろな仲間がいる。いろいろな事が起こる。
やがて、時間が経ち、多くの仲間が集り、それぞれが、それぞれの想のなかで19時を迎える。飲まない再会の握手、今日一日に感謝の想いが一杯の会場に一人でも多くの仲間が来てくれるのをメンバーは願う。

仲間を迎えるセットが終了するともうひとつ大きな仕事がある。

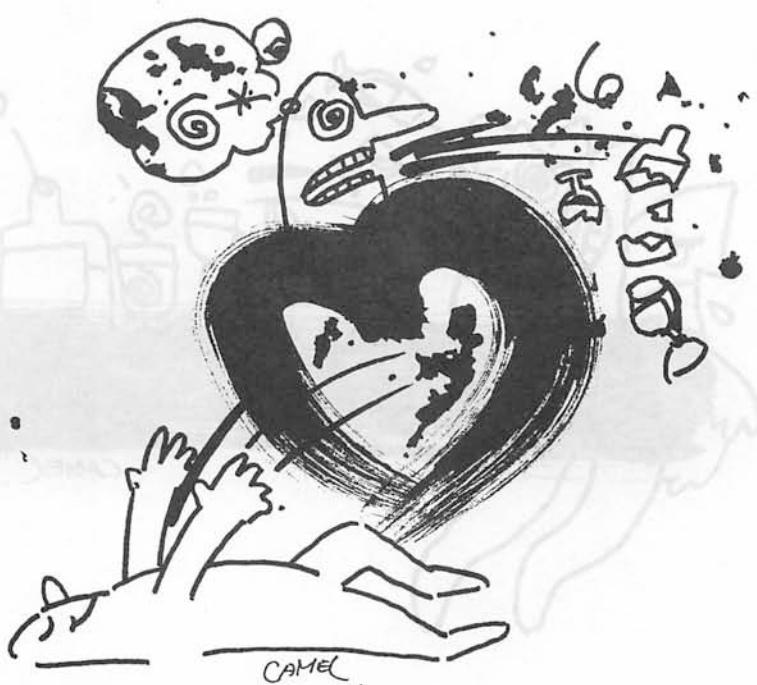
AAミーティングの司会を決める事だ。一番楽なのは自分自身が務める事だろう。しかし、そこで私物化の問題が出る。好みやマジネリ化もそうだろう。

AAミーティングは決して誰れのものでもない。にしき町・グループでは19時から20時30分の間がミーティングの時間として決められている。そして、この1時間30分はお酒を飲まないで生きようと頼り集つた仲間に平等に与えられた貴重な、大切な時間だ。したがつて、司会をできる仲間が均等にその役割をしていただくのが良いだろうと考えられる。

AAミーティングはテーマを出す。しかしそのテーマに捕われることはないだろう。もちろんテーマに沿つた話を自分の話し番が来るまでに考える事は良い事だ。その時、さまざまな考え方や想いが浮ぶ。それを話しやすく整理することは大切だ。

アルコール依存症者が100人いれば100人の考え方、生き方があるといわれる。真にその通りだ。人の命が尊いのはその一人一人の世界が全く同じではないからだ。そして、二つと同じ人生が世の中に存在しないということだ。人は決して一人では生きて行けない。共に何らかのかかわりがあつて共存している。自立を目指すということは、自分にかかる人たちに迷惑をかけなくなつていく事だ。しかし、AAの無償の贈り物は別だ。ありがたく甘んじよう。そして、自身が回復のなかで、次の新しい仲間に引き継げばいい。また、そうする事がロダンにとつて飲まないで生きていくられる唯一の手段だと想うようになつてきている。

ロダンには二人の子供がいる。一人は昭和46年生れ、一人は昭和52年生れた。6年の差があるのは母が異うからだ。平成7年3月27日に家庭は崩壊した。上の子は一人マンション住い。下の子

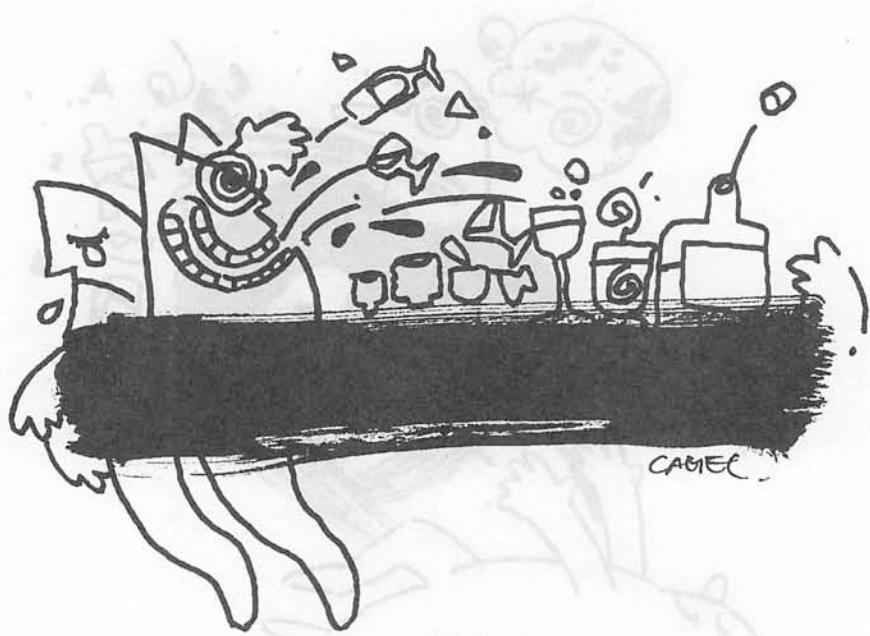


はその母と一緒にアパートに移り住んだ。当時、高校2年から3年になる時だった。その後一度も逢っていないし、連絡を取つた事もない。この三人にとつては、ロダンを悪魔としか想つていないだろう。もしかして、ロダンの七回忌をやっているかも知れない。

実は、その他に男の子がいた。マー君と呼んでいた。あと75日で22才になる時に横浜市営地下鉄「港南中央駅」で電車に飛び込んで死亡した。平成2年1月19日の早朝6時前の事だった。昭和44年4月に生れた。ロダン25才、マー君の母24才。

ロダンは北海道札幌市出身、結婚した当時は京都に住んでいた。相手は九州宮崎県日向市出身、何の事はない。ただ北海道と九州の取り合せが気に入つた結婚だった。ロダンは面喰いだから、たしかにかわい娘ちゃんだった。トランジスターがもてはやされた時代だった。その娘の身長148cm。「小さな恋人」の漫画が連載されていた。愛なんてわからなかつた。単なる性欲を満すためだつたのかも知れない。そして生まれてきた。その22年弱は何だつたのだろう。中学一年生の時、少年少女囲碁大会で神奈川県代表になつた。絵が好きだった。ギターが好きだった。しかし、22年弱の人生はもうない。お酒を飲まないで、生きる希望を持つたロダンの心の中でしか、マー君はいない。

ロダンは津久井グルーの会場チエアマンもやらせていただいている。木曜は、19時から20時30分。橋本ビル6F。ソレイユ・サガミ会場だ。たんたんと開場している。そしてたんたんと後片付けをして、京王線20時49分発新宿行き急行で帰つている。大江戸線に乗り換えて新宿で降りる。赤札堂に寄つて朝食と昼の弁当の食材を買う。必ず買う物の中にバターロールと1Lのアイ



スコーヒーがある。バターロールは7ヶ入り100円。アイスコーヒーも100円だ。三食のうち一食はこのパンにしている。もう9ヶ月も続いている。レンヂで調理しているから、麺類は食べなくなつた。カップラーメンはもう二年も食べていない。近くに「51ラーメン」店があつて、アパートに移り住んだ一ヶ月位の間に5回ほど食べた。180円也だ。外食も安くまかなくことができるが必ず酒が置いてある。酒に近づかないのが安全だ。

3月17日（日曜日）に船堀（大江戸線）にある東京健康ランドに行つた。三人の仲間で行つた。露天風呂、サウナ、漢方薬湯、水風呂、そしてリフレッシュして心も身体もきれいになつた。

昼食の後、宴会場のカラオケで菅原洋一の「今日でお別れ」を唄つた。二曲目は「三都物語」谷村新司のJ.R西日本のテーマソングだ。

ロダンはカラオケ狂だ。原宿の仲間、東村山の仲間、津久井の仲間と時々カラオケに行つている。

高校生のころ、カルテットを組んでいて、「モロッコ」という札幌のキヤバレーで唄つていた。舞台で唄うとよりうよく唄えると信じている。お酒がなくたつて唄はいい。お風呂に入つて身も心もきれいになつて、今日一日をリラックスして。唄えばいい。心に太陽を!! 口唇に唄を!!で生きていようと思つてゐる。

地の涯で 一曲やれと 雪が云い
酔わずとも わかれの唄に 舞い桜

完

「ホームレス自立支援法」 ようやく制定へ 春はたたかってつかむもの

新宿連絡会NEWS VOL.28号

好評発売中！（B5版15P/100円）

東京路上生活メールマガジンHOMELESS NEWSも好評刊行中！お求めは手紙、FAX、メールにて。メールマガジンは連絡会HPに今すぐアクセス！

新宿連絡会

111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷芳園若狭社会館対面
☎ 03-3876-7073/099-3818-3450 FAX 03-3876-7073
ホームページ <http://www.tokyohomeless.com>
メール shinjuku@tokyohomeless.com
<カンパ金送り先>
郵便振替口座：00170-1-723682 「新宿連絡会」

水道町より

旅する「ムカムカ」 "Mukamuka" round over the world

新潟市新潟市 ……あれ、前と同じ様に書きました。
やまほりがお着きますなあ、「新潟市新潟市」、いんとは
水道町よりあなたはおへな一人なベーハ。どうぞよろしく。

きっかけはこうだ。仕事の帰り道、自転車同士ですれ違い様に見知らぬおじさん、「ハイテツ」、「ハイテツ」
「バー」、「バー」と言ひ語てられた。しかしア然。走り去るお、ちゃん。

確か街灯火だった私、百歩やすくて「ハイテツ」で受け入れたとしても「バー」は負けない。
絵にすると、こんな感じでこやへな「バー」なんか無性に腹立つな…。

誰か、何が、ぶつかとこうむ無いからなんこそえすら
浮かんだ時、果はあのおちゃんももう思っておとづれに現われた私に腰立ちをぶつ
けたのかもね」という気をしてきた。

その時、「ムカムカ」をめぐみ壮大なトラマが頭に浮かんだ。
例えは海のどつかで生まれた波がじつしか遠い国の大河に押し寄せる
様に、どこかで生まれた一つの「ムカムカ」が世界中を旅してくる…
名付けて「旅するムカムカ」だ。

スペインの、ある町。恋したフランシスコダンサーに惚れあしやられた青年。
が「ムカムカ」とぼした石が通りかかる車に当たり、はね返った石で
ケガしたへの「ムカムカ」が、病院へ行く途中のタクシー運転手へのやつ当たりとなり…そんな「ムカムカ」が、海を渡りめぐらてある晩、新潟の
深夜の交差点にたどり着く。うへへ、トラマだなあ。
ここでこびから「ムカムカ」の旅やしぶに、ベベーン。
(ナシ食い)、収まり気持ちを100円のニューカリームでのすことだ。
かくて旅は終り、スペインの青年の「ムカムカ」は自転車のおちゃんを経て死にました。

(阿蘭美香)

東京

第18卷

路上

散歩

ふらり

写真・岡田知子
文・笠井和明

TOKYO 桜





たとえば、いわゆるそれが一般の社会人の場合、春は別れと出会いの季節と称されているよう、年度替わりの一年の始まりであつたり、定年退職する先輩方を見送り、初々しい新入社員が入社して来たりと何かと周囲に変化をもたらし、心なしか心機一転を誓う季節となる。桜の花々は長年に亘りそんな世の中を憎らしいほど演出し続けて来た。

しかしるに路上の春は？

襟裳の春と同様、なにもない春なのであろうか。

今年の東京の桜は何と彼岸の入りに満開という観測史上初の異変をもたらした。入社式や入学式に桜がないのでは、さぞかし御父兄や関係者は憤慨したであろうが、路上から見れば春は早い方が良い。

とりわけ今年の冬はどこか異常であつた。季節や季節の中の出来事が異常なら、そこに住む人々もまた不安におののく。体調も、精神もそれについておかしくもなる。もちろん季節が変わつたからと何も全体状況は變りはないのであるが、それでも癒し効果といいうものは確かにある。それが東京の中途半端な桜であつても咲かぬとなればこりや困る。そして癒しと解つていてもそりや早い方が良い。

都心の桜はいかがなものか、狂い咲きの東京はいかがなものか、あえて確かめる必要などないのであるが、春の陽気につられ街を歩く。

江戸川橋から降り、神田川沿いの江戸川公園を散策。川と桜なら隅田川が定番なのではあるが、あまりにも定番過ぎてもはや行く氣にもなれない。東京の桜はどぶ川のような神田川と、山の手の地形がもたらす起伏の底に残された公園に咲く方がよほど庶民的である。

土曜日の昼だけに、公園には花見客が一杯、陣地取りに会社名や町会名が書かれた紙があちらこちら。けれど、満開の桜を期待する人々に反し桜の花びらは、冷たい早春の風に揺られてどんどんと舞つてゆく。予定調和

でしか季節を感じられないふやけた世間をあざ笑うように。

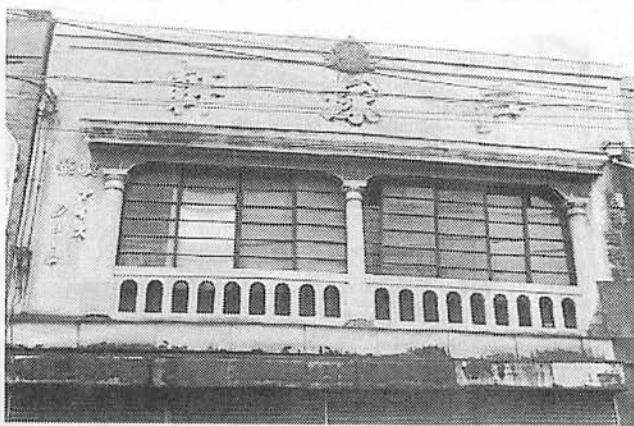
それでも醉客は酒に呑まれてどんちゃん騒ぎ。桜で酔えぬなら酒で酔ってしまえと、これは都会のバカ騒ぎ。でもまあそれも解らぬではなし。

椿山荘の庭園には桜などという世俗的な木はほとんどなし。山県有朋の邸宅でもあつた由緒正しいこの庭園は今や結婚式場の一角でもあるが、どこと氣にお高い雰囲気。結婚式場からちようど若い新郎新婦が祝福のライスシャワーならぬフラワーシャワー、見知らぬ人の幸福に水を指すのもなんだけど、花なら川べりでハラハラと散つてるよ。

隣の芭蕉庵では着飾った方々の春のお茶会。庵の前の中にはリヤカーの焼き芋屋さん。芋焼く煙に桜の花がまざりあい何ともおかしな光景なり。

前日、知人と神谷町で夜桜見物をした。こちらは庶民らしさを遙かに通り過ぎ、森ビルの都市計画戦略の中に咲く上品な桜。けどまあ、それはそれで真っ向勝負をしてくれれば桜は都会の夜をあざやかに飾ってくれる。もしかすると一瞬の美というものは高層ビルばかりの都会だからこそ似合っているのかも知れない。もちろん宴会は御法度で、ライトアップされた桜並木を歩きながら見上げるしかないのだが、酒の力などなくとも美の魔力に醉つていける。

桜の花はエネルギーッシュである。幹から分岐した幾本もの枝の先に蕾をつけるばかりか、幹の下の方からも新芽がによきによき、そして蕾を枝ばかりか幹にまでやらにつけこれでもかこれでもかと咲き狂う。何がそうさ



せるのか誠に狂った木としか言いようがない。

神田川を別れ、ここは旧街道筋なのかレトロな建物が密集している高田の坂道を登る。都心地と遙い忘れられたかのよう開発の魔の手が伸びていない住宅地。東京の二面性をつくづくと感じる。

日本女子大の前の桜も新入生を迎える前にもう散り始めている。人々の期待に応えぬのが狂気なら、この木にもたまには自己主張をさせてやれ、とも思う。

時あたかも政治の疑惑のオンバレード。秘書にまで国が給料を払っていたとは驚きであったが、いくら議員や政党を厚遇しても所詮人がやる政治。世俗から離れたければ山伏になつた方がまだましか。まるで桜が狂え狂えと扇動しているかの

よう。

ならば御期待に応えてと行きたいところであるが、悲しいかな人はそんなに狂えるものではない。せいぜい酒の力を頼るがヤマ。

目白通り、不忍通りを縱に抜け、雑司が谷に出る。高田から坂を下り雑司が谷へと地名通りの起伏。もちろん谷の方はしもた屋続。

下町の代表格と云えば、東京の定番は谷中であるが、なかなか雑司が谷の街並みもそれにおとらず、これまた地名通り雑な処が微妙な良い味を出した街。

雑司が谷と云えば靈園と鬼子母神。何か冷氣漂う恐ろしげな街かと思えば、そうでもなく實にのどかな街。鬼子母神も恐そうな名だが、実は子孫繁榮の神の名。桜は人を惑わすばかりで何も反省もしないが、こちらの鬼は人の化身。昔は鬼でも悔い改めれば神となる。

境内では錆びれた骨董市。椿山荘よりも由緒正しい本殿や境内は、それなのにどこか無秩序であつけるらかん。世俗に接してきた寺ならではか。ここでは桜など不純な木はもちろんわき役、大銀杏がでんと立ちすくむ。

鬼子母神からちょっと先へ行くと法明寺。普段は地味な寺だが、短い参道や本堂の前の広場は桜が満開。隣が墓



地である事も忘れ、桜の艶氣で何やら誠に有難い寺のように見える。カメラを持った人々が花の接写をしようと背を伸ばしている。なかなか世俗の寺は人を感わしてくれる。こんな桜が咲き乱れたら坊さんも修業どころではないだろう。

寺の脇の細い道を抜ければ、南池袋の繁華街。突然のにわか雨が本降りになり、桜の花々も長くは持ちそうにもない。とは云いながら花々も必死に抵抗するので全部の花が一辺に散つて行く訳でもない。辻元氏も加藤氏も優柔不断であつたよう、散り際の美学というのはそんなに美しいものでもないようだ。ハラハラと名残惜しげに散つて行くのが桜の花である。桜の花びらがブルーシートにへばりつくよう、狂った末の末路は誰もが同じよう醜くもある。

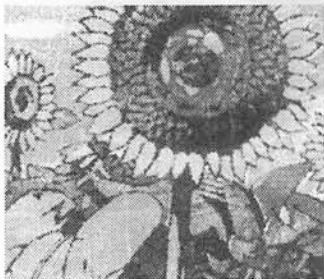
世間一般ではない人々はこの東京の春に何を思うのだろうか。唉こうと思つてももう唉けないし、狂つてみようと思つても狂えないし、やり直しへの夢を春に託すしかない路上。なにもないと云えども知れないが、なにかあると云えども知れない。どうやつて人の心を惑わしてくれるのが東京の春なのだろう。

いつも心が揺れ、揺れ、そうこうしてる間に夏が来る。

南池袋公園ではおっちゃん等が雨の中、炊き出しの準備。桜に見とれているゆとりはない。一心不乱に包丁で野菜を切つている。

やがて雨も上がり、どこからか大きな荷物を抱えた人々が寄り集まつて来た。





おきなわ旅日記 ～子ども～

恩田美代子

同宿の女子学生から、与那国馬のふれあい広場で島の子ども達が乗馬をする、という情報を受け私も参加することに。広場を主宰しているマークンの車に同乗し現地へ向かう。車の中で私が、こっちの子どもは目が輝いていると言うと、「まず、こっちの子は相手と目を合わす。都会の子は合わせないよね…子どもと大人を分ける必要はない、大人でも子どもの心を持っている人は居るし。」

マークンが広場で子どもに接する態度は、見ていて本当に気持ちが良い。子どもと同じ目の高さで話し、注意する時は一度に厳しく言う。そして回りのスタッフには、自らやる仕事を態度で示す。さて、昼食時間。広場で子どもと大人が分かれてお弁当を食べていると、マークンが子どもの輪にはいり、ハイジャックならぬお弁当ジャックを開始し一人一人からおかげを少しづつ失敬し大人達に、「君達もこっちに来てお弁当ジャックをしよう！」と声をかける。あっという間に広場は皆のワーウーキャーキャーの声で大騒ぎになり、子どもと大人の境界線が消えている。

乗馬には、幼稚園生と小学生が挑戦するが馬に対する恐怖心が異なり面白い。幼稚園生は好奇心の赴くままに馬に触れ乗っているが、小学生はまず頭で考え馬に触れる迄の時間が長い。

それにしてもすさまじい日射しで、ただ立っているだけで体力を消耗するが、その分冷たい水がおいしい。この後、貸自転車を走らせ海岸へ。これ迄見てきた外洋の強い波と違い静かな砂浜で、熱さで疲れたせいか気持ち良く寝入ってしまう。起きると肌が痛い！ひどい日焼け…これでまたシミが増える。近くの魚屋さんで、イカ・カツオ・カジキ・タコを少しづつ食べるとどれも甘くておいしい。店主は内地（本州）から移住して17年目になる人で、「来た当初は、ひがまれて大変だったよお、でも我慢してここまで来たんだあ」と。

夜、民宿のおばあの晩酌の相手をし、アルコール度数60°と30°の泡盛を頂戴する。へべれけになり就寝。

読者のページ

読者のページは「露宿」の自由投稿スペースです。御意見、御感想、編集部への質問など「ろじゅく編集室・読者のページ宛」にお送り下さい。

笠井和明 様

露宿十七号P・十六 矢田道夫氏が池
田満寿夫氏と将棋をよく指した長坂貞徳
氏（草思社初代社長）のことが取り上げ
られました。三月三日三時（P.M.）に目
に止まりました。

二月一三日に届いた黒田医院（長野市）
の黒田惣一郎氏（内科医）からの本「耕
雲（黒田コレクション）池田満寿夫」に
よれば、黒田氏は池田満寿夫の三人目の
コレクターです。一九七〇年から収集を
始めました。池田氏とは同じ町内ですか、
りつけの医師が黒田先生でした。私は黒
田山荘の管理（冬の除雪）しています。
（一九八四年現）黒田コレクションは長
野県の文化財です。招待券を頂きまし
たので同封します。矢田氏が希望されば幸
です。こういうことを、黒田惣一郎
（一九二五）は「機縁」と書いて来ま
した。

新潟日報二〇〇二・三・一、日報抄に
よると「日本にはこじき（ホームレス）
が神の化身だったという説話が多い。
自分達の代わりに苦悩を背負っている。
という思いがあつたのだろう。」と書か
れていました。キリスト教のある聖人が
親切にした「こじき」がキリストだった、
という説話があります。

ト・イエス）と言いました。マザテレサは「第二の聖体（キリスト
二〇〇二・二・二五（月）新潟日報で
はじめて「ホームレス自立支援」（東京
支社・野沢達雄）について取り上げまし

た。その中で「ホームレス問題に直面し
ていない一般国議員には『ホームレス
を甘やかすな』と立法自体に反対の声が
ある」と書かれていました。

ホームレスの代表を国会へ送つて、國
會議員に甘えないように自立した活動を
して行く必要を感じました。

ホームレス（失業者）の方針を
かかげられるのは、ホームレスの代表者
のみです。

週刊ポスト誌もホームレスの議員（都、
区レベル）が誕生することを予想してい
ます。

前略

あまり良いものができません
が、自分のおもいだけでも伝え
てほしいと思います。

「ろじゅく」は少し難しいときも
ありますが、ほんとうに楽しみ
にしています。ありがとうございます。

私の義母は旧姓、恩田ミヨシと言いま
した。おきなわ旅日記の恩田美代子（ミ
ヨシ）と同じです。小和田恒（雅子さん
の父）氏の叔母（早生している）もミヨ
シという名でした。小和田ミヨシの母親
(小和田恒の祖母、上越市生)は助産婦
さんでした。私の仲人の渡辺由太郎はそ
の助産婦さんによつて取り上げられまし
た。（一九二二・三・二一）小和田恒氏は
オランダに行きました。日本の失業問題
解決にはオランダで行なわれているワ
クシエアリングが参考になると言われて
います。

「ろじゅく」のみなさまのご
健康心からお祈り申し上げます。

いわせまこと

私は時間で、時間で、もどらな

いものかな、もどらないものか

など、つくづく、しみじみ思ひ

考えます。三月六日で七十五才

の生を受けました。観念でなく

行動だと思います。

病の身が老の身が情けなくなり

ます。

そんな日々の生活です。

御自愛の上、頑張つて下さい。

心より希望致します。

二〇〇二・三・三 P.M. 10・50

五瀬四郎

笠井様

三月十五日
田代猛

はり師いが丸の 肝心かなめ

はり師いが丸

白木蓮は、今年も風の冷たいうちから大きくふくらみ、でろでろと散っていった。きれいだと言わせない、愛しい奴である。今年は春が来ないと思っていた。ほぼ諦めていたと言ってもいい。しかしながら、東京の桜は早く、私たちをまごつかせた。

実は、春は苦手である。一年のうち、私はこの季節に最もうろたえる。寒さに向かう季節に、厚手の上着に袖を通すのはよい。冷たい風により立ち向かえるからだ。けれども秋に羽織ったその一枚を脱ぎ捨て、無防備になるのは、どうにも勇気がいる。

むせ返るような陽気に圧倒されて狼狽する中、ようやく顔をほころばせてくれたのは、生き抜くに最も過酷な冬を越えた仲間の声。「やっと暖かくなったね。」微笑みを向けてくれる人に気付いてはじめて春を喜んだ。ひとりではうまく笑えないのだ。

そんなある日、仲間たちと慣れない歌詠みをした。多くの仲間が「彼岸」を詠んだ。私もかろうじて、遡った仲間のことをつぶやき、作品にした。

その人の声が二度と聴けないこと。ぬくもりがもう戻らないこと。彼岸の人への無念は、もう届かない、そんな想い。それを載せた花を手向け、掌を合わせたりすることができる場所は、墓場でなくても欲しいと思う。いつも残される私たちのために。けれども同じ此岸にいるにもかかわらず、今を過去として、弔わねばならない時はどうすればいいのだろう。そこには、つながろうとした人や、つむぎ続けてきた筈の人がいつも存在する。9歳の子供なら、訣別を宣言し、一生かけて憎み倒す決意もできるだろうが、そんな幼きゆえの頑なさは、もう持てそうにもない。

誰が言い出したことが知らないが、人なんて、結ばれるものか。あるとしたら、通い合うだけだ。だからこそ慈しみ、そのはかなさを覚悟することもある。それらの記憶を、容易く切ったり捨てたりすることはできない。心が通う人との出逢いは、生きているうちに、そう何度ももあるものではないのだから。

「過去なんてあってないようなもの」なんて、私にはまだ、とても言えやしない。けれども、そのセリフを笑って言えるようになるまでに、どれほどの苦しみを越えてきたかということなら、痛いほど、推し量ることができる。

はかなげな花たちを見つめる時、冬を越えていたら、きっとこうして花をめでただろうにと、岸の向こうの人たちを想う。私はまだ、この冬を何ひとつ乗り越えてなどいないのに、春を迎ってしまった。

5月1日。外は既に初夏の匂い。西新宿の空の下、時には怒りに石を持ち、時には仲間の背をさすった掌を、どれだけ強く握りしめて、歩くことができるだろうか。



季節は春なれど路上の春は、孤独な男女が流れ流れて路上の港にたどり着く季節。明日を夢みる新入生の輝きに何を思い、散る桜に何を思うのか？人生の春を過ぎ、荒波に揉まれ、たどり着くのはいつも底辺。

けれど悔やむのはみっともないし、悔やんだからとどうなるものでもない。自分一人じゃない。仲間がこんなにもいる。人生は「成功者」や「若者」だけのものではない。表現も「成功者」や「若者」だけのものではない。俺らにしか出来ない事、俺らにしか表現できない物は幾らもある。俺らの波乱万丈は、人生は何かという事を知っている、言葉の意味が何かという事も知っている。

来れ、新たな表現者。「露宿」は路上につながる仲間達の表現誌である。

[露宿定期購読の御案内]

路上文芸総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

編集後記

「がたごとと 行き交う電車 高架下

背低く根差す たんぽぼ見つけ」

汗ばむ陽気となりました。なまぬるい風吹く朝、JRの線路を横に見上げ歩きます。アスファルトの歩道脇に真っ黄色の小さなたんぽぼ。桜早々と散り花見でどんちゃん騒ぎもおさまたった街。たんぽぼの種みたくフワフワただよわず、しぶとくへばりついたいこの春です。それにしても春眠暁を覚えず。かなり眠い。

どなたか強力目覚ましを！ひゃー自分で起きろって？（お）

次号19号は7月1日発行予定です。

原稿締め切りは6月2日必着にてお願いします。

露宿ベン・俱楽部短信

今年の桜は早咲き。春がよけいに来たみたいでちょっと得した気分。春眠を貪っていたらいつの間にか新緑の季節。たまには近所を散歩して美しい季節を楽しみましょう。

宗春さんから久し振りの原稿も届きました。嬉しい限りです。

また悲しい報せが。投稿者「飲んべえの宮」さんが亡くなりました。晩年はAAの活動に専念していたそうです。ご冥福を祈ります。

露宿バックナンバー有ります。

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号、12号、13号、14号、15号、16号、17号の在庫があります（2号、4号は売切れです）。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

Rojuku

定期購読大募集

♪露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくれました。一冊でも多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したい思いと、利益が出れば焼き出しお米代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先

郵便振替口座

00160-6-190947

「ろじゅく編集室」

露宿 ROJUKUはココで買えます。

- ◆**模索舎** 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆**TACO ché** 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆**スペースかぼす** 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆**新宿中央公園ボケットパーク** (毎日曜午後6時から8時まで) TEL 090-3818-3450 ◆**城西教会** 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL 03-3466-0445 ◆**山谷労働者福祉会館** 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073 ◆**石手寺** 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆**ぐりん・びいす** 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿(ROJUKU)」第18号 2002年5月1日発行(隔月刊)

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450(笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー